

「救いたい心」をつむぐコミュニケーションマガジン

# 赤十字 NEWS

Japanese Red Cross Society NEWS

<https://www.jrc.or.jp>

令和5年1月1日(毎月1日発行) 赤十字新聞 第992号 昭和24年9月30日 第三種郵便物認可

JANUARY 2023 NO.992

# 1



わたしも赤十字 献血の協力者 ソ・ソングンさん P.4でご紹介

## 特集

29歳で余命3カ月の宣告。あれから6年、生き抜いた。

## 僕の命を支えてくれた「温かな献血」

P.2-3でご紹介

赤十字の最新情報をSNSでチェック!



赤十字新聞 編集・発行/日本赤十字社 広報室 〒105-8521 東京都港区芝大門 1-1-3 TEL:03-3438-1311 一部20円 赤十字新聞の購読料は会費に含まれています。

人間を救うのは、人間だ。

 **日本赤十字社**  
Japanese Red Cross Society

29歳で余命3カ月の宣告。あれから6年、生き抜いた。

# 僕の命を 支えてくれた 「温かな献血」

末期の急性リンパ性白血病と診断され、遺伝子の染色体異常も判明。治療しても回復の見通しが立たないと、医師からは「余命3カ月」の宣告。それから5年10カ月。蝦名聖也さんは数え切れないほどの赤血球・血小板輸血を繰り返し、過酷な治療を乗り越え、「一日でも長く生きて、恩返しをしたい」と、健康に良いメニューを提供するレストランを東京都内に開業しました。蝦名さんが食や治療、献血のことを発信し続ける、その思いを伺いました。

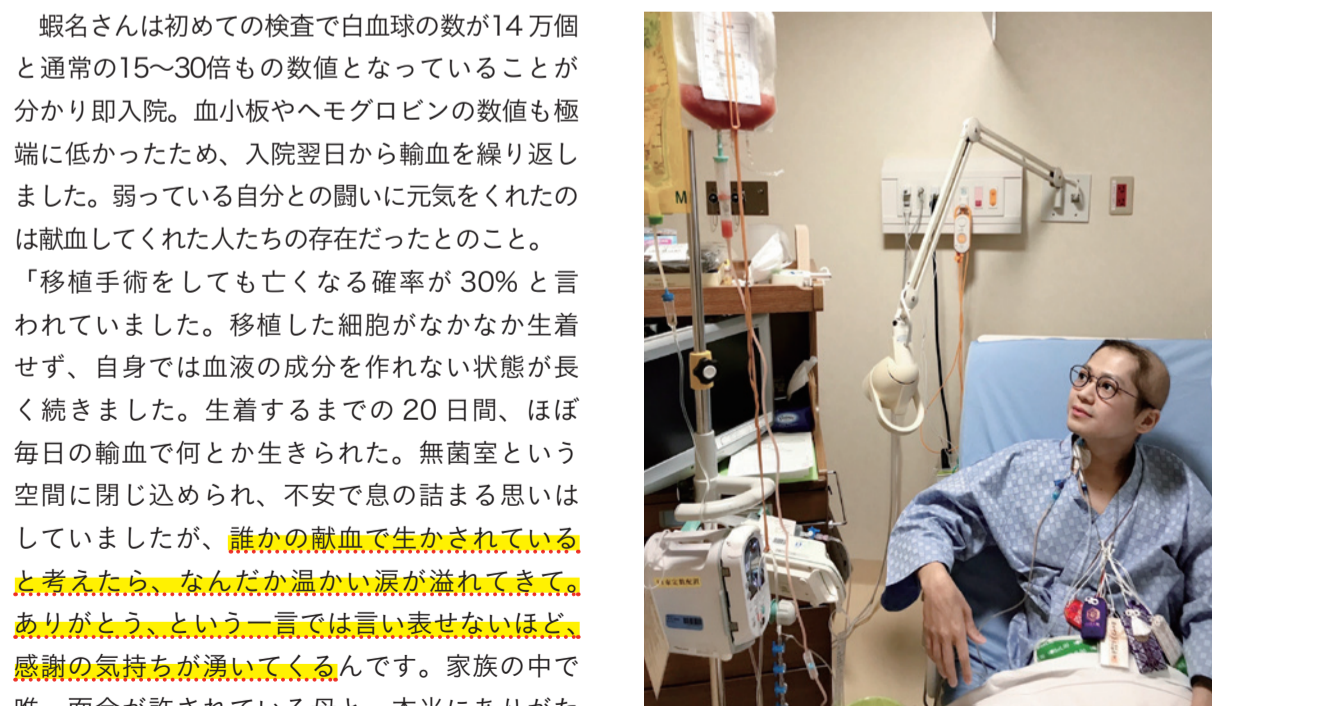
## 誰かの献血に生かされている 自然と溢れてきた温かな涙

2017年3月、体にできた青黒いあざがなかなか消えないことを不思議に思い、検査に行った病院で急性白血病と告げられた蝦名さん。29歳、IT企業での仕事も楽しく、まだまだこれからというときの余命宣告でした。

「最初の数日間は現実をまったく受け入れられませんでした。いろいろな記事を読み、病気について知ることによって、前を向くしかない気持ちと切り替えました。医師からは『君は献血で命をつないでもらって、骨髄移植か、臍帯血移植をやらないと生きられない』とはっきり言われていたので、そのショックが大きすぎた半面、1パーセントでも可能性があるならその1パーセントに入ってやる！という強い気持ちが生まれて。決意の一方でつらかったのは、僕を支えてくれる母が無理して笑顔を作り、どんどん痩せていく姿。親不孝でごめん、と。3人兄弟の末っ子だったので、父母だけでなく年の離れた兄2人にも心配をかけました。お店を始めるとき、高額な治療を長期間続けて開業資金がなく、クラウドファンディングをすと伝えたら、兄から『前には1日でも長く生きてほしい！だから体の負担が大きい飲食店開業は兄としては応援したくない』と長文のメールが。でも最終的には僕の決意を受け止めてくれ、1周年を迎えた今、シェフナイフをプレゼントしてくれるほど心から応援してくれています」

蝦名さんは初めての検査で白血球の数が14万個と通常の15~30倍もの数値となっていることが分かり即入院。血小板やヘモグロビンの数値も極端に低かったため、入院翌日から輸血を繰り返しました。弱っている自分との闘いに元気をくれたのは献血してくれた人たちの存在だったとのこと。「移植手術をしても亡くなる確率が30%と言われていました。移植した細胞がなかなか生着せず、自身では血液の成分を作れない状態が長く続きました。生着するまでの20日間、ほぼ毎日の輸血で何とか生きられた。無菌室という空間に閉じ込められ、不安で息の詰まる思いはしていましたが、誰かの献血で生かされていると煮えたら、なんだか温かい涙が流れてきて、ありがとう、という一言では言い表せないほど、感謝の気持ちが湧いてくるんです。家族の中で唯一面会が許されている母と、本当にありがたいね、と言いながら、うれし涙を流したのを今でも鮮明に覚えています」

「スタッフやお客様の支えがあるから頑張れる。体に良いものも提供しながら、心と体にそっと寄り添いたい」と蝦名さん  
※撮影時のみマスクを外しました



入院直後から連日輸血の日々だった蝦名さん。友人やSNSのフォロワーから贈られたお守りを肌身離さず、共に病と闘うパワーを感じていたそう



蝦名 聖也 えびな・せいや

1987年、東京都葛飾区生まれ。2017年、急性リンパ性白血病を発病。抗がん剤や放射線治療、2度の移植手術など4年間の闘病生活を経て寛解。昨年、体に良い厳選野菜を使用したカフェ「SOY LOVE U」を地元で開店。SNSなどを使って病気や治療、献血についての発信や交流を積極的に行っている。



闘病の様子や思いを伝える、蝦名さんのInstagram



## 誰かの希望になれば… SNS発信を続ける意味

治療の末、社会復帰した蝦名さんが、東京・葛飾区にこだわり野菜と豆乳のメニューを出す店をオープンして1年。治療の影響もあって大腿骨頭壊死になり、人工股関節を入れているので、今も脚に痛みを抱え、重たい荷物を持つことは医師から禁止されています。「立ち続けたり、ずんどう鍋を洗ったりすることができず、スタッフに助けってもらっています。自分ができない事は受け入れて、周りの人の助けを借りる。もし1人で何でもできてしまっていたら、周りの温かい思いや愛に、気付くことも感じることもできなかったかもしれない。白血病との闘いも、人の優しさや温かさを感じることもできずに病と向き合っていたら、病状は悪化していたんじゃないかとも思うんです。僕は「誰かのために生きる」ことを軸にして生きています。余命3カ月と言われた人間が6年近く、生かされている。僕の成功体験である移植手術や、笑顔で店頭に立っている僕の存在が誰かの希望になるかもしれない。全国で病気と闘う誰かが1人でも僕のSNSを見て頑張ろうと思ってくれたらと、自分の病気についての全ての情報を公表し続けています。

コロナ禍で多くのお店が閉店していく中、1年間継続できたのは、スタッフも含め、お客様や応援して下さった方たちのおかげ。SNSを見て僕に会うことを目標にして『治療を頑張るよ』と言う方や『蝦名さんが献血できない分、代わりに私が行ってきます！』と言う方も多かったです。こんなふうに幸せの連鎖で献血に行く人が増えたら、僕のように救われる命も増えるのではないかと。時間は有限で、皆さんの大切な24時間の中の貴重な時間を使って献血へと足を運んでくださることに、言葉では表現しきれないほど心から感謝の思いでいっぱいです。そしてその時間と血液をいただくことによって、この僕のように、誰かの命が救われるきっかけとなっていることを知っていただけたら幸いです。白血病だけに限らず、悩みを持つ全ての方が前を向けるように、これからも発信を続けていくつもりです。実は今、血栓症や高血圧など7つの病気を抱えていて、移植手術をした大学病院の検査で、医師から『命があまり長くない可能性がある』と言われてしまいました。でも、だからといってお店を閉めるとか、生きる速度を緩めるようなことはしたくない。たくさんの方に支えてもらって今の僕がいます。1人でも多くの誰かのために、恩返しをして生き続けていきたい。厳しい現実とはたくさん立ちかはるけれど、今までも、これからも、支えてくれているみんなと一緒に、温かい感謝の気持ちを忘れることなく、生きていきたいです。きっと未来は明るいと信じて」



リーグのサッカーチーム「アルビレックス新潟」の早川史哉選手(左)とは闘病中にSNSを通して知り合い、今では親友と呼べる仲に。写真は初めて顔を合わせた日の1枚



競泳の池江璃花子選手(左)ともSNSを通して交流が始まった。同じ境遇である母親同士も連絡を取り合う仲になっているそう



## 生きる力を、シェアしよう！～「はたちの献血」キャンペーン～

今年のキャンペーンキャラクターはウルトラマンと高橋ひかるさん。若い世代へ「生きる力をシェア！」と献血を呼び掛けます。期間中に献血して下さった10~20代のラブラッド会員2万名様に記念品を配布するほか、オリジナルモバイルバッテリーが抽選で100名様に当たるSNSキャンペーンなどを実施します(30代以上の方も応募可能)。詳しくは特設サイトをご覧ください！

「はたちの献血」キャンペーン 1月1日(日)~2月28日(火)

特設サイト <https://www.kenketsu-share.jp>



## 新年のご挨拶

## 創設者の理念を大切に、尊い活動の継続を

日本赤十字社社長 清家 篤

あけましておめでとうございます。

2020年初頭のCOVID-19によるパンデミック到来から、日本赤十字社は総力を挙げてその対応に取り組んでまいりました。全国の赤十字病院、血液センター、社会福祉施設では、人々の生命や生活を守るために、職員たちが力を尽くしており、さらにこの間も繰り返し襲ってくる自然災害の被災者を救うため、ボランティアの方々も大変な貢献をされています。これらは赤十字の理念である「死と苦痛と闘い、尊厳を守る」という活動の実践に他なりません。そうした実践を縁の下で支える支部、本社の職員の働きも合わせて、深く敬意を表したいと思います。

そうした活動には全国の皆さまから物心両面のご支援をお寄せいただいております。その一つ一つに第一線で働く職員やボランティアの方々は何れほど励まされたことでしょうか。日赤を代表し心から御礼申し上げます。

海外に目を転じますと昨年2月にはウクライナで深刻な人道危機が勃発しました。日赤も、ただちに海外救援金の募集を開始し、それらは国際赤十字を通じて、ウクライナ避難民への物資支援や医薬品の提供、そして離散家族の安否調査など、多岐にわたる活動に充てられています。もちろん海外の人道危機はウクライナにとどまらず、多くの国や地域で紛争や自然災害による飢餓や生活困窮に苦しむ人たちの支援に、日赤は今年も力を注いでまいります。

言うまでもなくこうした内外における日赤の活動は、ご寄付やボランティア活動など、困っている人々を助けたいという皆さまの利他的なお気持ちによって支えられています。それは税や社会保険のように法によって求められているものではなく、また雇用契約のような対価を介在したものでもありません。それらは単なる「資金」や「仕事」ではなく、困っている人を助けたいという皆さまの温かいお気持ちの

結実したものです。だからこそそれは尊いのだと思います。

昨年暮れの12月28日、日赤創設者である佐野常民の生誕200年を迎えましたが、佐野の大切にされた「惻隱の情」という言葉は、まさに「困っている人たちに同情し、その人々を助けたい」という皆さまのお気持ちを表すものでありましょう。創設者の理念を現在に実現すべく日赤は今年も活動を続けてまいります。あらためて今年の皆さまの御健勝、御多幸をお祈り申し上げますとともに、引き続き皆さまの温かいお気持ちのこもったご支援を日赤の活動に賜りますようお願い申し上げます。新年のご挨拶といたします。



## わたしも赤十字

今月の表紙

赤十字にはさまざまな形で活動に参加する支援者がいます。全国の支援者の中から毎月お一人を、温かいメッセージと共にご紹介いたします。



献血の協力者

ソ・ソンガンさん

埼玉県さいたま市/36歳/埼玉大学大学院生

血液がんで亡くなった祖母  
他人事ではないと意識が変わり  
日本でも献血回数80回

私が初めて日本に来たのは2006年、兵役のために韓国へ戻り2019年に再来日して大学院で勉強しています。今はキャンパスに近い大宮献血ルーム ウエストに通っており、回数は80回を超えました。韓国では献血ルームの案内に携わる人の多くがボランティアです。日本のルームはどこもきれいでスタッフの人数も多く、献血者一人一人を看護師さんがしっかりと見てくれるので、非常に安心感がありますね。

初めての献血は17歳のときに学校に来た献血バスで。まだ若く無知だったので、授業がサボれてラッキー！という感じでした。そんな私が積極的に献血をするようになったのは祖母の病気がきっかけです。血液がんと診断されて半年もたたないうちに亡くなりました。韓国の人口は5163万人、私が見たデータではその中の約2万2710人が同じ病と闘っているそうです。割合的には少ないけれ

ど、実際に身近な人に降りかかって初めて当事者意識が生まれました。献血したいか否かと選択するものではなく、「献血はしなくてはならないもの」と意識が変わったのです。私が熱心に献血に通う姿を見て興味を持ち、自分で調べて献血を始めてくれた友人もいます。とてもうれしかったですね。

日赤のWEBサイトには献血で命が救われた方が写真付きで感謝のメッセージを載せていて、献血に対する理解が進むと感じました。献血する人が日本でも韓国でも、もっと増えるといいですね。

## 初めて献血される方へ

輸血用の血液は、まだ人工的に造ることができず、長期保存することもできません。10～30代の献血協力者数はこの10年間で34%(約90万人)も減少しており、血液を安定的に届けるためには、若い世代の献血へのご理解とご協力が必要となります。

献血へのご協力について詳しくは ⇒



# TOPICS

## 在宅看護のポイントPart.2：発熱時のケア 回復をサポートする3つのタイミング

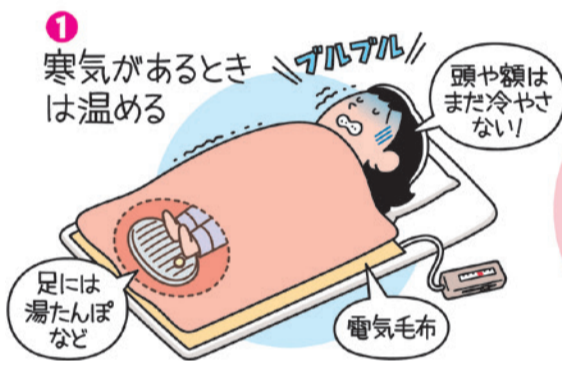
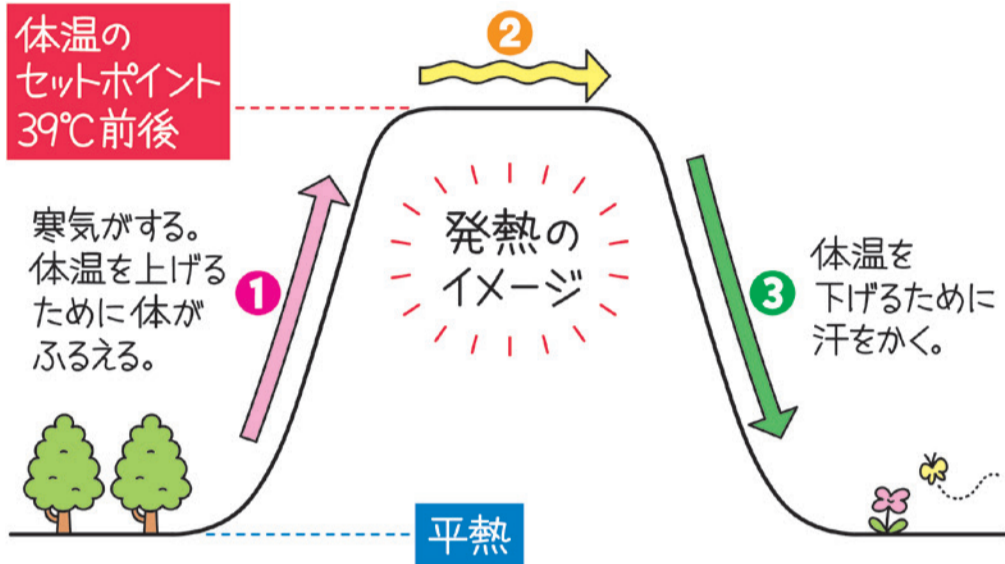
### 在宅看護のポイント Part.1

看護時の消毒・清掃に

ついてはコチラ⇒



新型コロナやインフルエンザなどのウイルスが体に侵入すると、体温調整をつかさどる脳の視床下部から全身に指令が行きます。免疫がウイルスと闘う力を高めるためです。この時、通常の体温設定よりも高い温度に設定され(セットポイント)、それに向けて熱が上昇。しばらく維持された後、熱が下がります。実は、熱の上昇・下降のタイミングに、回復を助けるポイントがあるのです。



### 発熱時のケア、3つのタイミング

※小児の場合は医師とご相談ください。

#### ①上り坂のタイミング (寒気があるとき)

体温上昇を助けるために、掛け布団を追加し、電気毛布や湯たんぽなども使用 (特に手足を温める)。まだ頭はまだ冷やしません。常温～温かい水分を飲んでおきます (後で汗をかくため)。

#### ②高台のタイミング (熱が高いままのとき)

寒気がなくなったら、布団を減らし、電気毛布などの使用をやめ、氷枕などで頭を冷やします。ここで、多めに水分をとります。長い時間、高温が続くと体力を消耗し、体がダメージを受けるので、首、脇の下など太い血管のある場所を重点的に冷やしたり、医師の指示で解熱剤を飲んだりします。

#### ③下り坂のタイミング (熱が下がっているとき)

発汗は大切ですが、汗を多量にかくのが良いわけではありません。汗をかいたら体を拭いたり着替えたりし、ゆっくり休めるように寝具や服装を調整します。脱水症状を予防するため、体が吸収しやすい経口補水液を飲むのもオススメです。のどの痛みがある時は、とろみのある葛湯や常温の飲むゼリーなどを少しずつとりましょう。



### 自作の「経口補水液」

1リットルの水に、塩3g(小さじ1/2杯)と、砂糖40g(大さじ4杯半)を溶かす。少量の塩分に適量の糖分が加わることで、ただの水よりも体が吸収しやすくなります。おう吐や下痢の症状もある場合は、よりこまめな水分摂取が大切です。

※コップに移して飲むようにし、1日で飲みきれない分は捨てましょう。

# 献血 まるわかり 辞典

「なるほど!」と思わずヒザを打つ  
“献血にまつわる豆知識”を紹介。  
第10回は、献血をしてくれた方への「表彰・顕彰制度」についてです。



### ひょうしょう・けんしょう-せいど

## 【表彰・顕彰制度】

### 継続的な献血協力に対する感謝と 功労を称える気持ちをカタチに

さまざまな治療に役立てられている輸血用血液製剤や血漿分画製剤などは、無償でご協力くださる方々の善意の献血から造られています。

日赤では「献血への感謝の気持ちを伝えたい」との思いから、工夫を凝らしたプレゼントや記念品(バッジなど)を進呈してきました。さらに、継続的に献血にご協力いただいた方へ深い感謝の意を表すため、その功労を称える「表彰制度」および「顕彰制度」を設けています。

1980(昭和55)年以降の表彰制度は、献血30回で銀色有功章、50回で金色有功章の楯が贈られていました。この有功章の楯は多額の寄付をされた方に贈られる楯と同じものでした。1995(平成7)年度の制度基準変更により、現在は70回で銀のガラス盃(銀色有功章)、100回で金のガラス盃(金色有功章)が贈られます。

顕彰制度も時代とともに変化し、現在は献血

### 〈献血の表彰・顕彰〉

かつての表彰品(銀色の楯)



現在の表彰品(銀・金色のガラス盃)



献血者顕彰の記念品



※赤十字マークがエンボス加工されています

上)有功章は、ご寄付や献血、奉仕活動などで日赤の活動に多大な貢献をいただいた方へ贈られるもの。写真は1980年ごろの表彰品である銀色有功章(楯式)。なお、金色有功章の場合は金色の楯となった中)献血70、100回の表彰品である銀色、金色有功章(ガラス盃)下)現在の選択制記念品から、今治産無燃糸フェイスタオル

10回、30回、50回に達するごとに、有田焼小皿や今治産無燃糸フェイスタオル、若狭塗箸2膳セットからお選びいただける“選択制記念品”が贈られます。

また、継続的に献血へご協力いただいている企業・団体の方には、各都道府県において開催される献血イベントや皇室の方々もご臨席いただく献血運動推進全国大会などで感謝状が贈られます。



埼玉県 石川県

地域密着型「赤十字防災セミナー」を各地で開催  
学校・住民・企業・スポーツチームもDIG(災害図上訓練)!

地域の状況に応じた防災行動を考えていただくため、日赤の防災セミナーでは地図を活用した「災害図上訓練(DIG\*)」を実施しています。 \*Disaster Imagination Game

11月24日、日赤埼玉県支部と松伏町赤十字奉仕団が、松伏町立松伏第二中学校3年生168人に向けて防災セミナーを開催しました。1クラスで行う防災授業を他クラスへ配信する形式で、団員たちは各クラスに分かれて学びをサポートしました。生徒は防災マップを作成し、地域の特徴から土砂災害などの危険性について考え、災害時に自分たちにできることを話し合いました。

11月29日、石川県支部戸板地区では防災・減災研修会を実施。住民だけでなく、地区に本社や事業所がある日本光電、石川日産自動車販売の社員や、プロサッカーチーム「ツエーゲン金沢」の選手も参加。地図を囲んで、地震を想定した地域の危険箇所や、防災資源の場所などをチェックし、家庭や地域でどのような対策が必要かを学びました。



奉仕団員のアドバイスを受けながら、災害マップで学ぶ生徒たち



スポーツ選手(中央)も地元企業社員も住民も、真剣に地図で訓練

全国 皇后陛下から御下賜の手拭い新柄になって全国へ

12月9日、日赤名誉総裁である皇后陛下のお誕生日に合わせて600本の日本手拭いが下賜されました。今年から新柄になった手拭いは老人保健施設や特別養護老人ホームなど日赤の9施設に送られ、1本1本入所者に手渡し。東京の特別養護老人ホームレクロス広尾では、入居者の入浴用に用意していた本物のユズと、ユズの絵柄の手拭いを並べて笑顔で記念撮影を行いました。



「家族に手拭いを見せたいです」と91歳の阿木とよ子さん(中央)

千葉県 中学生の福祉体験授業を赤十字奉仕団がサポート

船橋市赤十字奉仕団が、市内の中学校の福祉体験授業をサポートしました。生徒たちは体の機能や動きを制限して歩行しづらくする「高齢者疑似体験キット」や車いすの体験を通じて、当事者の困りごとを実感。どのようなサポートができるのかについても考え、「相手の立場に立ってみると、見えてくるものや感じ方が変わってきた」など、新たな気づきを得ました。



奉仕団員は、疑似体験キットを装着して階段を下りる生徒を補助

岡山県 患者らが“共感”投票「医療安全カルタ」

11月18日～28日、岡山赤十字病院は院内各部署がミスやトラブル防止のために業務で注意している点を標語にした「医療安全カルタ」を展示。医療安全の取り組みを啓発しつつ、患者や市民の視点も取り入れようと、共感できるカルタに投票してもらいました。その結果、最も票を集めた「おしゃべりとながら作業がいのちとり」(薬剤部)が最優秀賞に選ばれました。



玄関ホールに展示された、各部署の医療安全カルタは全29作品

東京都 長野県 福岡県 神奈川県 全国各地で県をまたいだ大規模災害訓練 羽田空港でも4年ぶりの訓練開催

10月27日、東京・羽田空港で航空機事故を想定した訓練に日赤神奈川県支部・東京都支部と、横浜・市立みなと赤十字病院および大森赤十字病院から24人が参加。

11月3日、長野県諏訪市で、日赤の富山・石川・福井・岐阜・静岡・愛知・三重・長野・山梨、9県支部合同の災害救護訓練を実施。日赤職員とボランティア約440人が、大規模災害時の医療救護や避難所支援、血液供給などの連携を確認しました。

11月3日・4日、福岡では、九州8県合同で相互支援やロジスティクスセンター(救護班の宿泊・物流拠点)運用の検証などを行いました。

11月19日、首都圏1都8県の日赤支部職員と救護班が秦野市に集結。避難者役のボランティアを含め約300人が訓練を実施しました。



実際に即した訓練で無駄のない連携を強化 訓練翌日、課題を洗い出し改善策を検討



4年ぶりとなる羽田空港での訓練



市内6つの学校の避難所として訓練会場に

徳島県 里親映画の上映会 幅広い世代の90人が観賞

徳島赤十字乳児院は徳島県里親会と共催で、養育里親と里子、実親の心情を題材にした映画「育ててくれて、ありがとう。」の上映会を開催。10代～80代の約90人が来場しました。上映後は、パネル展示やトークセッションによる質問会を行い、養育里親の体験談や里親Q&Aを皆で共有することで、多くの方に里親制度について詳しく知ってもらえる機会となりました。



上映作品の詳しい情報は二次元コードから↑

宮崎県 赤十字炊き出しレシピコンテストを初開催!

日赤宮崎県支部はハイゼックス炊飯袋を使用した「炊き出しレシピ」を募集。12月4日、応募総数126点の中から、一次審査を通過した6作品の最終審査会が行われました。一般部門は瀨崎心結さんの「トマサバ煮込みスープ」、赤十字奉仕団部門は甲斐恵子さんの「いわしごはん」がグランプリに。甲斐さんは「地域でも災害時の食事やその大切さを広めたい」と語りました。



グランプリ2作を含む応募作を掲載したレシピブックを刊行予定

天皇皇后両陛下から御下賜金

12月26日、天皇皇后両陛下から、日本赤十字社の事業奨励のために金一封を賜りました。この御下賜金は、災害等による被災者救援事業のための資金として使用されます。

常任理事会開催報告

令和4年11月25日、令和4年度第7回の常任理事会が開催されました。今回の常任理事会では、大規模地震災害への対応計画及び救護員の育成についてご審議いただき、理事会報告事項(令和4年度上半期事業報告)、アフリカの食料危機について、それぞれ報告しました。

理事会開催報告

令和4年11月25日、令和4年度第2回の理事会が開催されました。今回の理事会では付議事項はありませんでしたが、令和4年度上半期事業報告、令和4年度NHK海外たすけあい、予算の補正にかかる社長専決事項の決定状況について、それぞれ報告しました。また、欠員の常任理事の指名について報告し、同意をいただきました。

《11月号特別アンケート》質問項目

- [A] 赤十字の活動の中でよく知っている事業はどれですか  
ア. 国内災害救護 イ. 国際活動 ウ. 赤十字病院 エ. 看護師等の教育 オ. 献血(血液事業) カ. 救急法等の講習 キ. 青少年赤十字 ク. 赤十字ボランティア ケ. 社会福祉  
※上記選択からア～ケの文字をご記載ください。複数選択可
- [B] 今回、赤十字NEWSを読んで、赤十字の事業の中で理解が深まったのは上記ア～ケの事業のどれですか ※複数選択可
- [C] 赤十字NEWSの適切な大きさは  
ア. 今のまま イ. A4サイズ ウ. 小冊子(A5 148×210mm) サイズ
- [D] 現在の赤十字NEWSの読みやすさ  
ア. 読みやすい イ. 読みにくい:その理由(文字量が多い/少ない、レイアウトが悪い、写真が多い/少ない、ページ数が多い/少ない)
- [E] 赤十字NEWSの発行回数は何回がよいですか  
ア. 月に1回 イ. 2カ月に1回 ウ. 3カ月に1回 エ. 4カ月に1回
- [F] その他、赤十字NEWSに関するご意見、ご要望

赤十字はじめて物語

日本赤十字社の事業 その出発点にはそれぞれの「はじまり」のストーリーがありました。

vol.10 社員制度

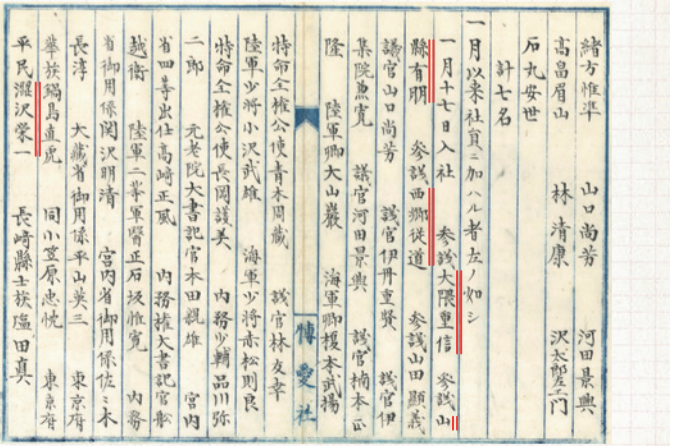
博愛社設立当初から続く支援の輪。そして「社員」は「会員」へ。

日赤の活動は、赤十字の理念に共感いただいた皆さまからの支援で成り立っています。このような仕組みは、日赤の前身である博愛社の設立と同時に始まりました。佐野常民と大給恒が作成した設立請願書に添付された社則第二条に「本社ノ資本金ハ社員ノ出金ト有志者ノ寄附金トヨリ成ル」と記されています。創設時、支援者(寄付者)の肩書は「社員」としました。赤十字の理念に賛同し、活動を支える支援者は、「日本赤十字社の事業に携わる社員である」と位置づけたのです。赤十字運動は政財界にも浸透し、初期の社員には錚々たる顔ぶれが。その後、社員の妻や貴族・華族の女性を中心となった日本初のボランティア団体「篤志看護婦人会」が誕生。その活動も後押しになって支援の輪が全国津々浦々へと広がり、社員数も増えていきました。

かつての「社員」は「会員」と名称が変わり、現在、日赤の活動は個人会員20万人、8.5万の法人会員に支えられています。



「博愛社報告」の中の“新入社員(支援者)”一覧



1880年1月17日入社(支援者)名。大隈重信、山縣有朋、西郷従道(西郷隆盛の弟)、渋沢栄一らの名前も

「赤十字を応援！」プレゼント パートナー企業紹介 vol.33 大分県椎茸農業協同組合

森林の新陳代謝を促し、美しい森林を守る「原木栽培」



原木しいたけ栽培を行うことで、水資源のかん養など森林の公益的機能の維持が図られるとともに、里山の良好な環境や景観保全を形成しています

1907(明治40)年に創業した大分県椎茸農業協同組合は、大分県内の約4000戸の組合員が原木で栽培した乾しいたけのみを取り扱う専門農協です。温暖な気候に恵まれた同県には、原木しいたけ栽培のために造成されたクヌギ林が4万7000ヘクタールも広がっています。古くから受け継がれるしいたけの原木栽培は、肥料や農薬を一切使用せず、環境に優しいことが特徴です。原木のために伐採されたクヌギは切り株から新芽を出し、13～15年で元の大きさまで再生。伐採と再生を繰り返すことで森林の新陳代謝を促し、森林の荒廃を防ぎ、健全で美しい森林が保たれています。原木は3～5年で役割を終えた後は土に還り、ミネラルなどを豊富に含んだ柔らかい土となり、雨水によって川から海に運ばれ、やがて豊かな海を作ります。柔らかい土は保水能力が高く、さらにクヌギがしっかりと根を張ることで山崩れなどの水害から里山を守ります。同組合は赤十字活動に賛同し、日赤大分県支部への寄付などで支援を続けているほか、社会貢献活動として、大分県協同組合協議会での環境保全活動や大分市神崎海水浴場の海岸清掃活動にも参加しています。

大分県産原木栽培乾しいたけ「上冬菇(じょうどんこ)」(135g)



肉厚で香り高い冬菇。毎年、全国品評会でも上位に入賞し、天皇家や各官家にも献上

【応募方法】 プレゼント希望者は、以下の項目を明記のうえ、郵送・FAX・WEBでご応募ください。①お名前 ②郵便番号・ご住所 ③電話番号 ④年齢 ⑤性別 ⑥赤十字NEWSに手にされた場所 ⑦11月号特別アンケートの回答(質問項目は右上の赤枠内) ※いただいた個人情報はプレゼントの発送および弊社からのお知らせに利用します。

郵送/〒105-8521 東京都港区芝大門1-1-3 日本赤十字社 広報室 赤十字NEWS 11月号プレゼント係 FAX/03-6679-0785 WEB応募/右の2次元コードからご応募ください。1月31日(火)必着 ※当選者の発表はプレゼントの発送をもって代えさせていただきます



# WORLD NEWS

## レバノンの国家経済破綻



レバノン共和国



©レバノン赤十字社

国内の救急車の搬送を一手に担い、信頼を寄せられているレバノン赤十字社。負傷者の応急手当てでもその場で行う

## 最悪の経済危機に陥るレバノン。 日赤が支援で伝える「あなたたちを忘れていない」

5人に1人が難民とされるレバノンで、いま起きている深刻な経済危機。国民も医療へのアクセスが困難となり、さらなる支援が必要な状況です。日赤の中東における活動の意義について、中東地域代表部の松永 一 首席代表に聞きました。

### 国民の8割が生活苦 受け入れ難民よりも厳しい状況に

日本赤十字社では2015年4月からレバノンに中東地域代表部を設置し、混乱の続く中東に対し継続的に支援を行っています。レバノンは人口あたりの難民受け入れ数が世界で最も多く、70年にわたって難民生活を余儀なくされているパレスチナの人々が数多く暮らしているほか、10年以上、内戦が続くシリアから150万人を超える難民も受け入れています。

そのような状況の中で、2020年3月にレバノンは債務不履行(デフォルト)を宣言。その年の8月4日に大規模なベイルート港爆発災害が発生した影響などもあり、今や国民の8割が貧困状態\*

となっています。「現地通貨の暴落に加え、ウクライナにおける武力紛争の影響から食料価格が2.2倍、ガソリン代は10倍など急激に物価が上昇してい

日赤中東地域  
代表部首席代表  
はじめ

松永 一

ます。中でも医療へのアクセスが深刻で、それまで日本円で360円ほどだった解熱剤が現地通貨換算で約7000円以上にもなったと現地職員から聞きました。」(松永首席代表)

レバノン赤十字社(以下、レ赤)では難民を対象に低額の医療サービスを提供してきましたが、医療保険制度も事実上停止となり、診療費を支払えないレバノン国民も難民キャンプの無料の診療所に押し寄せるようになりました。

「難民は赤十字をはじめとする支援団体から継続的に支援されていますが、今や多くのレバノン国民も厳しい生活を強いられているのです」

### 国民が最も信頼を寄せる 組織となった“赤十字”

レ赤は日頃から無償の救急搬送や血液事業を行っています。ベイルート港爆発災害や新型コロナウイルス感染症など緊急時の対応にも定評があります。2020年にベイルート港爆発災害を対象に行われた世界銀行の調査では、**政府や警察、国連を抜いてレ赤が国民から「最も信頼できる組織」との評価を得ました。**

「難民が住んでいる地域や学校などにトイレや殺菌ができる飲料水タンク、手洗い場を設置したことで、地域で下痢などの病気がなく

なった、という話を聞いています。今年からは、レ赤が運営する診療所の修繕・改修工事の支援を開始し、難民、そしてレバノン国民のニーズにも応えることを目指しています」

複雑な歴史が絡み合い、長年にわたって人道危機が続く中東地域。松永首席代表はレバノンを拠点とし、パレスチナへの医療支援に加え、シリア、イエメン、イラクへの支援も国際赤十字と連携しながら担当しています。

「各国の実情に見合った支援を行うため、まずは現地のことをよく理解することが大事です。国際赤十字や現地の赤十字・赤新月社の関係者のみならず、受益者の人々と対話を重ねていきたいと考えています。自己責任では片付けられない理不尽な状況下を生き抜いてきた中東の人々が最も恐れることは世界から忘れ去られること。**日赤が中東の支援を行う最大の意義は「あなたたちを忘れていない」というメッセージにあると私は考えています。**これまで支援をいただいていたことに感謝申し上げるとともに、これからも継続した支援を心よりお願い申し上げます」



整備した手洗い場の視察と使用状況の確認をする松永首席代表

## 赤十字、 世界の「現場」から

supported by ICRC

赤十字国際委員会(ICRC)、国際赤十字・赤新月社連盟(IFRC)、日赤の事業地で切り取られた1枚。知られざる世界の赤十字活動。

アフリカ全体で食料危機が進行する中、ソマリアでは人口の約半数である800万人余が、5季連続する干ばつにより壊滅的な被害を受け、過去40年で最悪の気象状況と言われている。乾ききった大地に農作物は育たず、家畜は餓死し、井戸が枯れた。こうしてソマリア国内で76万人以上が住み慣れた家を失った。

2022年の初頭から、ICRCはアフリカの干ばつの影響を受けた国々で活動の規模を拡大し、被災した人々やコミュニティを支援しています。ソマリアでは緊急の現金給付を行い、井戸を修復し、子どもや妊娠中・授乳中の女性の栄養失調治療などを強化しました。



© TAAXTA, ISMAIL / ICRC

\*国連報告